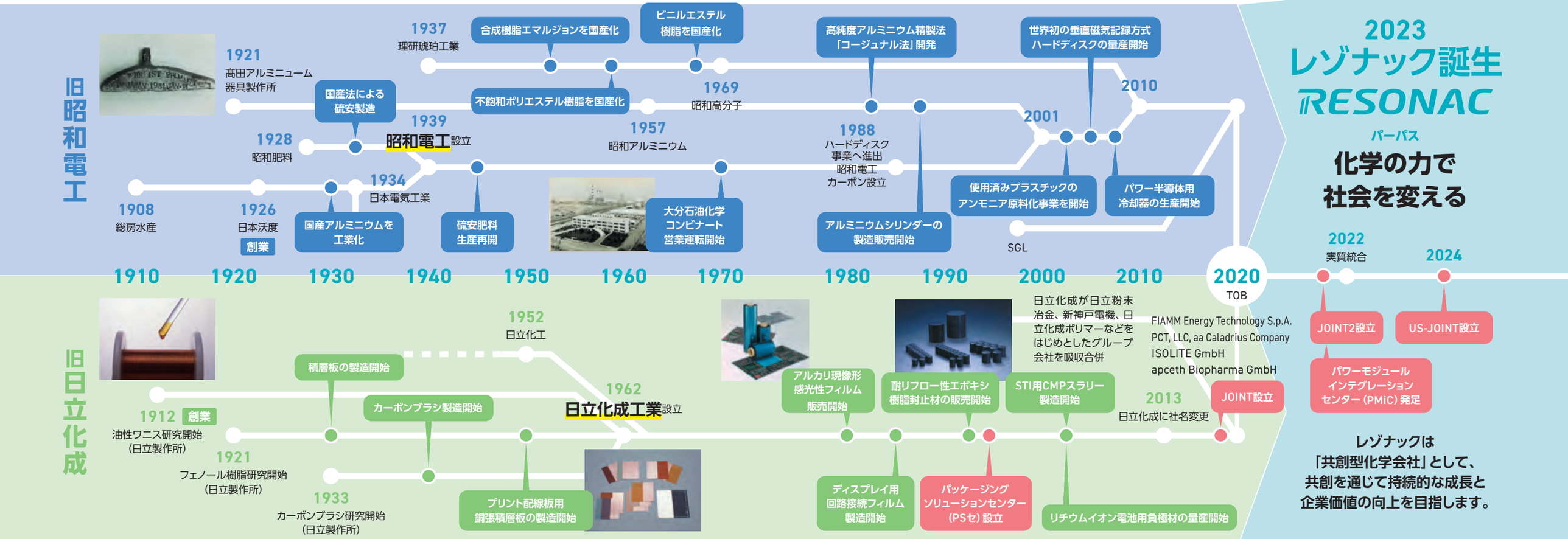
レゾナックが積み上げてきた技術と共創

2023年に第二の創業を遂げたレゾナック。旧昭和電工と旧日立化成が培ってきた技術と統合のシナジーをもって、
川中から川下まで幅広い素材・先端材料テクノロジーを持つ機能性化学メーカーとして、実現したい未来である「地球との共生」「人々の幸せと豊かさ」への貢献を進めていきます。



レゾナックは
「共創型化学会社」として、
共創を通じて持続的な成長と
企業価値の向上を目指します。

化学の力で社会を変える
—実現したい未来へ向けた歩み—

「不撓不屈」と人々への思い

旧昭和電工の創業者　森矗昶（1884～1941）の座右の銘は「不撓不屈」。「人々を飢えから救いたい」「人々の生活を豊かにしたい」という思いの下、水力発電など電気の原料化と国産技術の育成に取り組み、日本の国際的競争力の向上に貢献しました。当社パーパスにある私たちの「化学の力」はここが起点となっています。

すり合わせの力と共創

旧日立化成では、幅広い素材での材料・プロセス・評価など、顧客ニーズに応じたカスタマイズができる技術力に強みをもっていました。この技術力と「すり合わせ」の力を発揮し、1994年にパッケージングソリューションセンター（PSセ）を発足。30年間共創の先駆者として先端半導体パッケージ向け材料開発促進と開発連携、顧客との共創プロジェクトを進めてきました。

レゾナックの「共創のカタ」

両社の想い・取り組みを引継ぎ、現在、レゾナックでは、次世代半導体パッケージ分野において、材料・装置メーカーなどが参画するコンソーシアムを日本・アメリカで主導しています。また、PSセに引き続き、2021年にはパワーデバイス向け材料開発促進と外部共創のためのパワーモジュールインテグレーションセンター（PMiC）を発足。共創の取り組みが加速しています。

沿革の詳細はこちらから